

科 目 名	学年	期別・授業形態・単位数	教 員 名
インターンシップ Internship	1 または 2	原則として夏季・実習・ 2単位	機械制御システム工学コース長 研 究 室 内線電話 e-mail:
	授業（時間）＋自己学習（時間）＝標準 時間の学習時間		
	科目到達レベル：□1.知識・記憶 □2.理解 □3.適用 □4.分析 <input checked="" type="checkbox"/> 5.評価 □6.創造		
この科目は、関連する実務の場（学外企業、大学など）を自主的に選択し、受け入れ側の設定したテーマに対する実習・就業体験等を通して、専攻科で学習している専門知識と実際の経験の統合を行うものである。			
【授業目的】 協定先の海外を含む高等教育機関、企業等における一定期間の実習または研修や就業体験を通じて、専門分野における知識・技術・業務に触れながら実務能力を深め、新たな学習意欲を高めることを目的とする。			
【Course Objectives】 Through employment experiences for a fixed period in a company, a public corporation or an organization of a local self-governing body (or a country), students study the manners as member of society, a sense of responsibility over work, an engineer's role and technical importance. Moreover, students raise their occupational consciousness and can tackle study with a strong awareness for a future employment			
【到達目標】 1. 社会人としてのマナーや仕事に対する責任感を学ぶ。 2. 自らのマナーや責任感を向上することができる。 3. 「ものづくり」の技術の大切さを説明できる。 4. 進路意識を高め、就職等の対策を立てることができる。 5. 今後の勉学の動機付けを見出すことができる。			
【学習・教育到達目標】 (C) 習得した知識を統合して、社会に貢献できる製品やシステムを設計・開発する創造的能力と意欲を有する。			
【キーワード】 インターンシップ, ものづくり, 工場実習 internship, making of things, factory practice		【授業時間】 8時間×10日＝80時間	
【授業方法】 1. 原則として、夏期休業中に10日間以上、交流協定校・企業等に出向いて研修をする。 2. 受講申し込みは、「インターンシップ履修に関する規定」に従い「申込書」と「誓約書」を専攻長に提出する。 3. 研修終了後は、「インターンシップ実施証明書」をコース長に提出する。		【学習方法】 1. 研修プログラムは、受け入れ機関が指定する場合と、事前打ち合わせをする場合がある。 2. 経費については、打ち合わせ先に一任する（日当あり／なし、交通費あり／なし、宿舍あり／なし）。 3. 傷害保険に加入する。 4. インターンシップ報告会の資料作成のための自己学習を義務づける。	
【履修上の注意】 本校学生として恥ずかしくない態度で臨むこと、また、学習の一環であることを認識し取り組むこと。		【科目の位置付け】 1. 先行して履修すべき科目 2. 後で履修する関連科目 3. 同時に履修する関連科目	
【定期試験の実施方法】 なし			
【成績の評価方法・評価基準】 1. 学生が提出したインターンシップ報告書 2. インターンシップ受け入れ先から発行された実施証明書 3. インターンシップ報告会における発表 到達目標と上の1～3をもとに、専攻科委員会にて審議し、可否を判定する。			

【教科書・教材等】**【参考書・参照 URL 等】****【授業計画】**

	内 容	到達目標	
	原則として、夏期休業中の10日間以上、協定先の海外を含む高等教育機関、企業、公団、地方自治体、国の機関等に出向き、受け入れ側から提供されるテーマに基づいて実習・研修を行う。	1 - 5	

【学生へのメッセージ】

インターンシップは技術者教育の一環として、学校で学んだ知識・技術を、協定先の海外を含む高等教育機関、企業等で実際に実習等を体験するものである。

体験を通して、今のような技術が社会で必要とされているのか、そのためには何を学ぶべきか、また、実際に「ものづくり」の技や学術研究の一端に触れ、同時に自分の技術的・研究的センスを発見する絶好の機会である。

さらには、将来に向けて、進路意識を高め就職・進学対策の一助と位置づけ、取り組んでくれることを期待する。